



1986・1

第 20 号

しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



コハクチョウ（ガンカモ科） 毎年、熊谷市大麻生の森や河原へ、遠い北国からやってくる冬鳥たちの最後に到着するのが、コハクチョウです。単独または灰色の、幼鳥をまじえた5羽から10羽程度の家族単位で、冬をすごします。飛び立つ時は、リーダーの合図に家族が応えて一斉に鳴き声をあげて、水面を力強くけりながら飛び上がります。家族の絆は強いようです。昨年は到着早々、野犬におそわれて、翼をひろげて必死に戦う姿を見て感動しました。今年の大麻生が彼らにとって厳しい冬でないことを祈って……。（写真と文・今井明巨）

新年の抱負

野鳥への新たな

愛鳥思想の拡大を

日本野鳥の会埼玉県支部長 今井昌彦



新年明けましておめでとうございます。

ツグミのさえざりとともに目覚める朝の冷気が、一段と厳しさを増しています。会員の皆様には、ご多忙だった昨年を顧みて、新たな希望、目標に向かって、すでに第一歩を踏み出されたであります。

埼玉県支部の新生2年目はきわめて順調に、また堅実な前進をとげました。

支部組織が強化され、新たに部会制が導入され、若い幹事さんが多数選ばれて、活発な動きがありました。研究部は県内の野鳥生息調査の一環として夏鳥調査を行い、会員の熱心な協力により貴重なデータを集めることが出来ました。普及部は探鳥会の開催地を大きく広げ、パネル展、野鳥展を成功させて、県民の野鳥と自然への関心を拡大させました。編集部は「しらこぼと」の充実に努めました。

600人を越える会員と探鳥会参加者の大幅な増加は、そのまま支部活動の充実と、これに寄せる県民の期待とをそのまま示してい

るのではないのでしょうか。

さて、今年は、県民への一層の愛鳥思想の普及に努め、探鳥会の充実のため、探鳥会リーダーの研修を重ね、パネル展、野鳥展を開催し、ミニサンクチュアリ運動の展開とともに、一人でも多くの県民に埼玉の自然の大切さを考えていただこうと企画しています。

さらに、埼玉県で初めてのサンクチュアリの実現に努力するとともに、浦和をはじめ、県南地区の開発計画に対して、我々の意見を反映させていきたいと考えております。

研究部の行っている県内の野鳥生息調査に力を入れ、さらに充実したデータの収集に努力し、野鳥保護のための基礎作りを続けます。

支部活動の拡大のため、支部財政の充実は、重要な問題です。より質の高い活動のため、支部会員の皆様とともにこの問題に取り組む覚悟です。

我々がやらなければならないことは、教えきれません。埼玉県自然を守るため、会員の皆様の一層のご協力と積極的な参加を切にお願いいたします。

日曜日の来るのを楽しみにしながら

佐藤ミツ(浦和市)

明けましてお目出度うございます。

私は、恥ずかしい話ですが、カラスが2種類あるという事さえも知らずに、探鳥会に参

加させていただけ、今年では、日曜日の来るのが待ち遠しく、まるで恋人?にでも会いに行くような、胸の高鳴りをおぼえるようになってしまいました。今年は、出来るだけ多く参

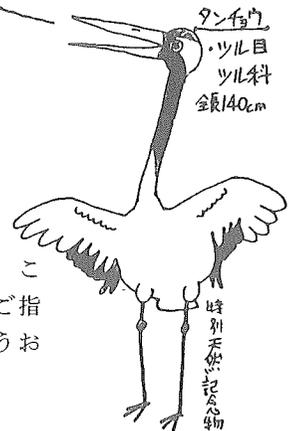
あけまして おめでとう

思いを込めて

加して、もっともっとたくさんの小鳥さんたちに会いたいと願っております。

最高の生きがいを教えてくださった皆様に

感謝しております。これからもよろしくご指導くださいますようお願いいたします。



タンイロウ
ツル目
ツル科
全長40cm

特別天然記念物



I am watching birds.

たくさんの鳥を見て もっとよく知りたい

大里小4年 池田琢朗 (浦和市)

今年は、いろいろな場所で行われる探鳥会に参加して、めずらしい鳥も、ふつうの鳥も、たくさん見て、それらの鳥についてもっとよく知りたい。

そして、他の野鳥の会の人に少しでも追いつきたいと思います。(左のカットも)

そおっと自然の中に

松井昭子 (大宮市)

新しいカレンダーに書きこまれる一年分の山の名を想像するのは楽しい。そこで出会う鳥たちや高山植物など、思うだけでも胸がときめく。けれども、自然への愛着はともすれば甘えとなり、つい侵害する側に立ってしまう場合もあって、考えさせられる。

今年の山歩きでは、このことに心しよう。

〈野の草の一本も傷つけず、野鳥や虫たちの営みを脅すことなく〉を肝に銘じて、そおっと自然の贈物を味わいつつ歩きたいと思う。



ハクセキレイ
スズメ目
セキレイ科
全長21cm

カワセミや猛禽類に会いたい

村上由香 (越谷市)



トラフズク
フクロ目
フクロ科
全長37cm
ホシ色目

私は、前から鳥が好きだったけれど、会に入れたのは6年生から

でした。それからは、探鳥会へ行くのが一番の楽しみです。今はまだ、浦和・三室や、この近くのところしか行けないので、中学生になったら、大麻生などにも行きたいなあと思います。(次頁に続く)

(前頁から)

私が一番見たい鳥は、カワセミや猛禽類たち……。だから、大きくなったら、この鳥を思うぞんぶん見たり、保護をしたりしたいと思います。

サンコウチョウとの出会いを 初日の出に

岡安征也 (北本市)

昨年7月に入会し、まだ3度しか探鳥会に参加していない、怠惰な新米会員です。家庭内円満を保つため、“夫婦共同参加”を約束させられています。

先輩諸氏のご指導よろしきを得て、目に映



る鳥の姿や鳴き声がすべて、気になる昨今です。鳥君たちに親しむため、できるだけ多くの名前を憶えたいと心に念じつつ、昨年、地鳴きを聞きながらも、ついに対面し得なかった石戸宿のサンコウチョウとの出会いを初日の出に祈ります。皆さん、今年もよろしく。

今年の思い出とともに

五十嵐輝雄 (所沢市)



野鳥の会の皆さん、明けましておめでとうございます。

小生、会員歴3年の小ベテラン?です。白状しますが、探鳥会参加2回の立派な?会員です。さて、こんな会員にも、昨年、楽しい思い出がありますので、聞いてください。

わが職場は、全国の公害問題に取りくんでいる人の研修所です。この中で、鳥獣保護担当者の研修があり、昨年初めて、日本野鳥の会埼玉県支部指導の下に、早朝探鳥会をやり

ました。

本部の市田則孝常務理事も参加され、所沢航空記念公園で野鳥視察。途中、米軍基地内でのキジの親子を観察。別のグループからは、イソヒヨドリを観察中の朗報など、和やかな探鳥会でした。この良い思い出を胸に、研修者一同は、全国で益々、自然保護に、野鳥保護に邁進することでしょう。

小生も、これを機に探鳥会に参加しますので、よろしく。そして、この欄をお借りして、早朝からご指導いただきましたリーダーの方々に改めて、お礼申し上げます。

自然界を生かすようにしたいもの

新嶋紀子 (千葉県浦安市)

一年のひと巡りを経て、新しい年を迎える時となりました。

私のささやかな信仰より、人間と天地万物の創造主が私共に委託管理を任された自然と生物を、全ての人々が大切に愛してゆく心を持つようにと常に祈るものです。どうか、自然界を人間が私物化して、勝手に処分するこ

とのないように、私共の幸せのために生かすことが出来るようにと願います。

四季折々に、多くの空の鳥や地にある生き物、美しい花、そして、友との素晴らしい交わりを楽しみにしております。



鳥への思い

福井恒人 (浦和市)

今年は、新生埼玉県支部も、3年目を迎えることになる。600人以上の、野鳥を愛する仲間と共に、活動の輪も、大きく広がることと思う。

初めての鳥との出会い、旧友との再会(鳥のことですよ)などの中で、バードウォッチャーが一度は体験することがある。それは、彼または彼女のつづらな瞳と、スコープなどのレンズの中で、パツパツと目が会った時のドキッとする衝撃——これは、どんな美人の流し目よりショックが大きい。(もっとも、今までに出会った美人は全て、営業用の流し

目しか、私にくれなかったからか?)

鳥との出会い。それは、たとえこの前に出会った彼女でなくとも、同じ場所で同じ種類

の鳥と出会うとつい、「元気かい? 今度会う時も元気な姿を見せてくれよな!」と、心の中で話しかけてしまう。この気持ちは、愛鳥家の皆様ならきっと、わかってくれると思うのです。



▲このあひだの探鳥会で見られぬは、マミキシチ。

探鳥会に初めて参加して

——60年10月27日、平林寺周辺

熊谷市・鈴木加代子 (学生)

こんにちは。私は、昨年9月に日本野鳥の会へ入会させていた

いた者です。会に友人がいないため、なかなか探鳥会に参加できずにおりましたが、昨年10月27日の平林寺の探鳥会に、思いきって参加してみました。

双眼鏡もなく、知り合いもおらず、知識的にも全くの初心者のため、不安もありましたが、会員さんは親切な方ばかりで、たいへん

楽しく参加することができました。双眼鏡を貸していただいたり、知らない植物の名前を教えていただいたり、初参加の私にも、うちとけやすく親しみやすい探鳥会でした。

飛んでいる姿や、声は聞いたことがあっても、名前や本当の姿は知らなかった鳥も多く、驚きや発見にあふれていました。また、私の家の近くに見られた見馴れない鳥も、くわしい知識を得ると、その親近感もぐっと湧いてくるものだと実感しています。この探鳥会を機に、野鳥への理解を深めてゆきたいと思っています。(カットも描いてみました)

バードショップだより <1月>

〔財〕日本野鳥の会事業部から

〔あけまして おめでとう ございます。お正月セール〕です。

“新春”のごあいさつにご利用ください。半端、見本品など、一年分の掘出し物・お買得商品・福袋など各種ご用意。1月25日まで。※2月は、バレンタインセールを予定。

(2~5頁のカット8コマ・比企 裕)



特別大賞記念物

ミニサンクチュアリに 寄せて



『野鳥』誌(昭和59年)
「ミニサンクチュアリ」
特集号から

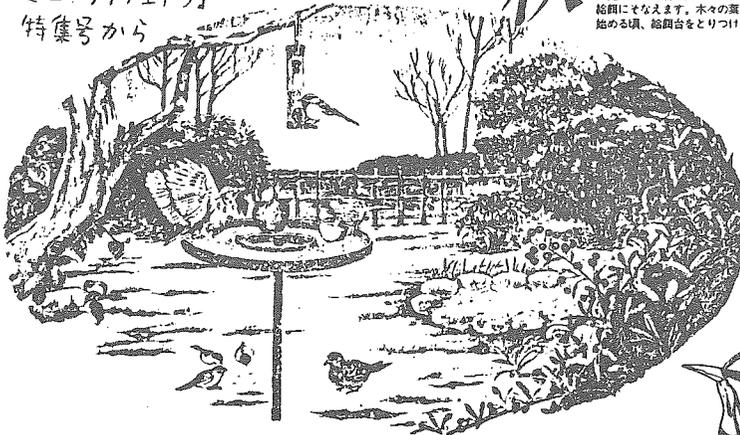
秋

涼風、満月、鳥渡り、虫すだくとき、
落葉はそのままにして土にかえすか、
ほどよせておくと、そこがコロロギを
はじめ、小さな虫たちのすみ場所。柿
が完り切れる前に買いための、秋末期の
結露にせなえます。木々の葉が色づき
始まる頃、結露台をとりつけます。



ヒヨドリ
スズク目
ヒヨドリ科
全長27cm

どこにでも
いる。うさぎやワケス



冬

冬越し、動物たちの生活にとって厳しいとき。
わぐらとしても利用できるよう、寒くなったら
巣箱かけ。食物の不足する時期。北風では
特に結露台の餌を断やさないように。水場の
水が凍らない工夫を。雪国では結露台のドカ
雷対策を。



他の鳥の
ものまわが
うまい
モズ
スズク目
モズ科
全長20cm

すずどり
ツグミ



ツグミ
スズク目
ヒタキ科
ツグミ亜科
全長23cm

カット
比企 裕

わが家のミニサンクチュアリ

蓮田市・中島康夫

現在、私たちの住んでいる都市周辺では、
急激に宅地化が進み、雑木林や田畑が消失し、
自然環境は、悪化しております。しかし、エ
サの不足する冬になりますと、住宅地にも、
いろいろな鳥がやってきます。

私の所でも、狭い庭に10年ぐらい前から、
エサ台を置き、実のなる木を植えて、鳥の来
やすいようにしております。まず一番に、ス
ズメがきます。次いで、キジバトやムクドリ

がやってきます。そうするうちに、
いろいろな鳥がくるようになります。

エサ台を占領し、ほかの鳥がく
ると、追い払うヒヨドリ、地面の上で静かに
ミミズや虫をさがすツグミ、樹の間をせわし
なく動き回るシジュウカラ、やぶの中で虫や
実をさがすウグイスやアオジ、木の梢で高鳴
きをするモズなど、どこにこんなに沢山の鳥
がいるのだろう、と思うぐらい、いろいろな
鳥がきて、冬の間中、楽しませてくれます。

今冬のわが家の一番の話題は、ピラカンサ
が枝いっぱい沢山の実をつけたことです。

このピラカンサは、ヒヨドリからの贈り物で、5年ぐらい前、ヒヨドリの落していったフンから実生で育ち、現在は、3mぐらいの高さにまで育ちました。

日本野鳥の会では、ミニサンクチュアリ運

「窓をあけたらキミが」いてほしい

鴻巣市・山本美代子

窓をあけたらキミ(野鳥)がいる。なんと素晴らしいことでしょう。

かれこれ10年前、そんな生活を夢みて、本屋で見つけた「野鳥の招き方」を買って求め、狭い庭に野鳥の餌木として、ピラカンサ、柿、うめもどき、まゆみ、もちの木などを植え、手作りのボードテーブルを置いてみました。初めてのお客様、ヒヨドリを見つけた時の感激!その後、毎年、北の国の雪便りを聞くころになると、紋付羽織のジョウビタキ、黒ネクタイ姿のシジュウカラが先ず、挨拶に訪れ、

朝、自分の部屋にいと、居間の方から、「ゲッチャン、変わった鳥が来ているよ」と5歳児が呼ぶ。四十雀が3つ4つ5つ、庭を左から右隣の方へ樹を伝って行くところであった。狭い庭であるが、梅擬きの下に餌台と水台を置き、5年になる。常連は雀、椋鳥、雉鳩で、食事をしたり、水浴など楽しんでいる。柿の実るころ、鶇、目白、四十雀、鶯、鶉、尉鶉(ジョウビタキ)が来てくれる。それでも、上得意は雀で……。

“給餌台 雀に戻る 鳥曇” とはなる。

わが家のミニサンクチュアリ

北本市・田中昭三郎

食卓のそばには、双眼鏡とフィールドスコープ、朝の食事はいつも、ボードウォッチングの時間です。

四季折々の変化をみせてくれる、前の家の



大ケヤキは、窓から見える景色の中心。カキ、クリ、カシ、ヒノキなどの木々の延長であるわが家

動を展開しています。自分たちの身近な所に自然を残し、鳥や虫たちが生活できる場を、ほんの少しの所でいいですから、提供しようではありませんかー。

次いでツグミ、ウグイスに混り、常連のヒヨ

ドリ、スズメと、テーブルは賑わいます。

鳥の世界のいじめっ子は、ヒヨドリ。サッと低空飛翔して、小さい鳥を追っ払い、パン切れを、目を白黒させながら呑み込む姿は、面白いやら憎らしいやら、しかし、飛び立つとき、一声ピーヨとお礼を言って去りますから、憎めません。去年、初めて来たメジロ、今年も来て、ミカンをつついていくかしら?

本日のメニューは、パンにジュース、柿、デザートはボードケーキ。障子に映る鳥影。きっと、「窓を開けばキミがいる」はず。

私の庭に来る鳥と俳句

浦和市・^{よぶと}諸徳寺四郎

餌台の争奪戦が面白い。今までのところ、椋鳥が、数を頼んで、最強である。鶇や鶉が来て食べていても、椋鳥が来ると、側の柘榴や梅に退避して、空くのを待っている。ところが、椋鳥の方は、入れ替り立ち替り来て、仲間が満足するまで占拠してしまう。酷いのである。

白椿が咲くと、こんな鶇が見られる……

“逆しまに 小枝の鶇や 白椿”

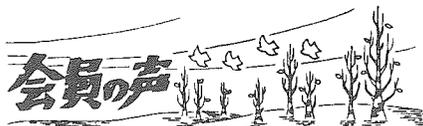
の小さな庭は、広がる原野?の一部となり、行き来する小鳥は、朝のひと時をたのしませてくれます。

近所の目を気にしながらも、庭の手入れをせず、一見、荒れ放題にしておくことにしました。移植したものはほとんどないのに、名もない雑草が生いしげり、春に咲く花々、秋に鳴く虫は、思わぬ目をひらかせてくれます。

去年の秋、どの鳥が落していったのか、種子から芽を出した、ツグとピラカンサの小さな苗が4~5本、どれだけ伸びるか、たのしみです。

昭和60年度 シギ・チドリ調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部



種名	秋ヶ瀬		大麻生		阪東大橋	
	春	秋	春	秋	春	秋
コチドリ	○	○				○
イカルチドリ			○	○	○	○
シロチドリ			○		○	○
メダイチドリ						○
ムナグロ	○	○	○		○	
ケリ		○				
ツバメチドリ	○					
キョウジョシギ			○			
トウネン		○		○		○
ウズラシギ	○					
ハマシギ	○					
アオアシシギ				○		○
クサシギ	○	○			○	○
タカブシギ	○	○				○
キアシシギ	○				○	○
イソシギ	○	○	○	○	○	○
ソリハシシギ						○
ダイシャクシギ						○
ハウロクシギ		○				
タシギ	○	○	○	○		
アカエリヒレアシシギ	○					
ジシギSP	○	○				

種名	川本町 明戸		蓮田市 黒浜沼		大宮市 深作沼	
	春	秋	春	秋	春	秋
コチドリ					○	○
メダイチドリ					○	
ムナグロ			○		○	
ヒバリシギ						○
ハマシギ						○
クサシギ						○
タカブシギ					○	○
イソシギ	○				○	○
チュウシャクシギ					○	○
タシギ			○		○	○

調査日 4/29, 9/15

調査には多くの会員のご協力をいただき有難うございます。今後ともよろしくお願いたします。

執筆・萩原正二

探鳥会3回目。紅葉も終わりに近い肌寒い11月半ばの日曜日。どんな鳥が顔を出すのか期待を持って三室へ。初めて参加する姪も、興奮気味。双眼鏡とガイドブックを持って出発。集まった人たちは、年齢も職業も違うけれど「探鳥を楽しむこと」ではみんないっしょ。ヤマガラ、カケス、シジュウカラ、ハマシギ……etc.。この日36種類、生まれて初めて「カワセミ」を見た。小さな喜びかもしれないけれど、大きな満足を得た。私にとって「収穫の秋」の一日だった。

牛田博和(川口市)

小鳥の名前も知らない私が会員になりましたのは、毎日ベランダを訪れる雀の可愛らしさと、この可愛らしい小鳥たちを大事にしなくてはという気持ちと、自然保護のために(気持ちだけでなすべを知らない)何か役立てたらとの思いからです。

杉本澄代(志木市)

私は、写真を撮っているものですから、野鳥の撮影を中心にした行事を開催してください。野鳥撮影のベテランを配し、撮影のテクニックを披露して頂ければ幸いです。

深町宗一(加須市)



カット・比企裕
(次頁も)

鳥情報

- サシバ ◇10月9日午前7時～8時、大宮市日進町上空を27羽(森本國夫)。
 サンショウクイ ◇10月21日午前7時30分、浦和市三室で2羽(海老原美夫)。
 ルリビタキ ◇10月21日午前7時30分、浦和市三室で♂1羽(海老原美夫)
 ジョウビタキ ◇10月22日、児玉町元田で♂3羽(飯野辰男)。◇10月26日、浦和市道祖土で♂1羽(国益 勝)。
 ホシハジロ ◇10月23日、桶川市川田谷の荒川河川敷で♂3羽(長野博行)。
 クイナ ◇10月23日、桶川市川田谷の荒川河川敷で1羽(長野博行)。
 アカハラ ◇10月24日午後1時、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。◇11月10日午前9時、春日部市中野の屋敷林で1羽(石川敏男)。◇11月12日午前8時、浦和市大谷口で1羽(近藤 崇)。
 アオジ ◇10月24日午前9時30分、浦和市の白幡沼で♀1羽(海老原教子)。
 トラツグミ ◇10月25日、越谷市の越ヶ谷小学校運動場で落鳥1羽(山部直喜)。
 ヒドリガモ ◇10月26日、桶川市川田谷の荒川河川敷で2羽(長野博行)。
 オオタカ ◇10月26日、桶川市川田谷の荒川河川敷で1羽(長野博行)。
 チュウビ ◇10月26日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(埼玉大野鳥研)。◇同日、桶川市川田谷の荒川河川敷で1羽(長野博行)。◇11月18日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(福井 亘)。
 チゴハヤブサ ◇10月26日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(埼玉大野鳥研)。
 タゲリ ◇10月26日午後1時、桶川市川田谷の江川で7羽(長野博行)。◇10月27日、大宮市の深作沼で33羽(中島康夫)。◇11月4日午後4時40分、岩槻市増長で約60羽(石川敏男)。
 コミズク ◇10月26日午後5時、大宮市の深作沼近くの草原で1羽(中島康夫)。
 アリスイ ◇10月27日、蓮田市の黒浜沼周辺

松で2羽(中島康夫)。

- アオゲラ ◇10月27日午前7時30分、北本市の農事試験場跡地で1羽(場谷本ルミ子ほか2名)。
 スズガモ ◇10月29日午後4時、桶川市川田谷の荒川河川敷で1羽(長野博行)。
 バン ◇10月29日、桶川市川田谷の荒川河川敷で20羽以上(長野博行)。
 ヨタカ ◇11月3日、三芳町の雑木林で1羽(藤原寛治)。
 ビンズイ ◇11月3日、三芳町の雑木林で1羽(藤原寛治)。
 ツグミ ◇11月3日午前10時、熊谷市大麻生の森で1羽(今井明巨)。◇11月4日午前7時、蓮田市の黒浜沼で5羽(福井 亘ほか3名)。◇同日、春日部市谷原新田で1羽(石川敏男)。
 ウグイス ◇11月5日午前10時、北本市北本で地鳴き(田中昭三郎)。◇11月16日、浦和市道祖土で3羽(国益 勝)。
 カムリカイツブリ ◇11月14日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(福井 亘)。
 ハマシギ ◇11月16日、富士見市の柳瀬川で約60羽の群れ(藤原寛治)。
 マヒワ ◇11月16日午後2時30分、秩父県民の森上空を35羽(今井明巨)。
 ミヤマホオジロ ◇11月16日、桶川市川田谷の荒川河川敷で♂♀各1羽(福井 亘ほか2名)。
 オオホシハジロ ◇11月23日午前9時、川越市の伊佐沼で4羽(森本國夫)。※混血?
 キクイタダキ ◇11月23日午後2時、大宮市日進町で2羽(森本國夫)。



NHK 教育(3ch)

『みてごらん』

を見よう

1月13日(月)

午前9時15分

コミズク
 フクロウ目
 フクロウ科
 全長38cm

本支部監事・石

井生高さん宅などのミニサンクチュアリを放映。お母さん方、ぜひ。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以下＝50円

1月3日(金) 東京都北区 浮間公園(荒川)
— ホロ酔い迎春探鳥会 —

午前9時30分埼京線浮間舟戸駅前集合(熊谷7:57発→大宮8:38着—埼京線乗換大宮9:03発→武蔵浦和9:16→浮間舟戸9:25着)。正午ごろ解散。池のキンクロハジロに新年のごあいさつ。空からは、チョウゲンボウやカワウがあいさつに訪れます。(担当＝海老原美夫、福井恒人)

1月5日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

午前9時10分東武東上線東松山駅前(寄居8:31発→森林公園乗換→東松山9:06着/武蔵野線南浦和8:04発→北朝霞8:14着(乗換)東武東上線朝霞台8:19発→東松山9:04着/川越線大宮7:55発→川越8:16着—東武東上線乗換8:38発→東松山9:06着)または午前9時30分吉見百穴前に集合。午後1時ごろ解散。吉見名物のタゲリを十分観察後、湖のマガモやハシビロガモを見ます。(担当＝田村照治、石井生高、長野博行、榎本秀和)

1月12日(日) 熊谷市 大麻生(定例)

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(浦和8:10発→熊谷8:59着—秩父鉄道乗換9:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32着)。午後1時ごろ解散。雑木林からアカゲラのドラミングの音が聞こえてきます。河原では、ユリカモメや毎度おなじみのカワセミも現れます。(担当＝鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

1月15日(水、祝) 全国一斉ガン・カモ調査

1月19日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館共催・定例) ※参加費無料。

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19発→大宮8:02着—京浜東北線乗換)または午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ご

ろ解散。芝川の干潟ではタゲリなどが見られ、ジョウビタキにも会えるでしょう。

(担当＝楠見邦博、森本國夫、福井恒人)

1月25日(土)夜～26日(日) 千葉県銚子ツアー ※詳細は、12月号参照。

1月26日(日) 久喜市 久喜・菖蒲工業団地公園昭和池

午前9時10分東北本線白岡駅前(東北本線大宮8:49発→白岡9:04着)または公園駐車場午前10時集合。午後1時ごろ解散。マガモ、トモエガモなど8,000羽以上のカモが見られます。(担当＝中島康夫、浅田徳次、松井昭吾)

2月2日(日) 三芳町 多福寺

午前8時45分東武東上線北福岡駅西口(大宮駅西口西武バス所沢行8:30発→地藏入口下車/武蔵野線南浦和8:04発→北朝霞(乗換)東武東上線朝霞台→上福岡)または午前9時30分多福寺駐車場集合。午後1時ごろ解散。冬枯れの雑木林の中、アオゲラやアカゲラのドラミングが響き、カラ類が忙しげに動きまわります。(担当＝藤原寛治、長谷きみ子、増田裕)

2月2日(日) 本庄市 阪東大橋北詰

午前9時高崎線本庄駅北口集合(高崎線浦和7:38発→大宮7:44→熊谷8:27→本庄9:00着)。午後2時ごろ解散。カモの大群やコハクチョウを見ます。(担当＝田村照治、石井生高、小淵健二)

2月8日(土) 浦和市 コミュニティセンター
— 室内会・野鳥写真教室 —

午後3時から。基本的な野鳥の撮り方やマナーなどについて。写真を始めたい人、すでに始めた人も、ふるってご参加ください。お問い合わせ、お申込は、支部事務局まで。(☎0488-32-4062)



探鳥会報告

11月9日(土) 川口市 差間地区

人 27人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ
コガモ タゲリ ユリカモメ ウミネコ シラコバ
ト キジバト キセキレイ ハクセキレイ セグロ
セキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオ
ジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(28種)
小春日和の一日、見沼の斜面林の紅葉とシメ、ジョ
ウビタキを十分に楽しめた。解散後、上空をチョウ
ゲンボウが舞って、参加者をよろこばせた。

11月10日(日) 熊谷市 大麻生

人 25人 天気 曇 鳥 コサギ カルガモ
コガモ ヒドリガモ オナガガモ イカルチドリ
イソシギ タシギ キジバト カワセミ アカゲラ
ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス
エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラ
ダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクド
リ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス(34種) ツグミ、シメなど、戻ってきた冬鳥た
ちとご対面。探鳥会後は、鈴木リーダー宅でビール
とカレー。ありがとうございました。

11月17日(日) 浦和市 三室地区

人 50人 天気 晴 鳥 チュウサギ コサギ
ハマシギ クサシギ タカブシギ イソシギ タシ
ギ ユリカモメ シラコバト キジバト カワセミ
コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒ
ワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハ
シボソガラス ハシブトガラス(36種) カワセミが
久々に現れて、美しい背を木陰に見せてくれた。

11月17日(日) 桶川市 江川流域

人 28人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ
コガモ クイナ タゲリ タシギ キジバト ヒバ
リ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジ
ョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ

ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス(26種) 目的地の江川流域では、20羽の
群れを合わせて約40羽のタゲリが出現した。

11月23~24日(土、日) 宮城県 伊豆沼

人 22人 天気 晴時々曇一時小雨 鳥 カイ
ツブリ ハジロカイツブリ ダイサギ コサギ アオ
サギ マガン ヒシクイ ハクガン オオハクチ
ウ コハクチウ マガモ カルガモ コガモ オ
カヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガ
モ ホシハジロ アカハジロ キンクロハジロ ホ
オジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ オオ
タカ ノスリ チュウヒ コジュケイ キジ オオ
パン ツルシギ タシギ ユリカモメ キジバト
カワセミ アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグ
ミ ウグイス シジュウカラ シラガホオジロ ホ
オジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ
ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハ
シボソガラス ハシブトガラス(57種) 支部発足後
2回目のツアー。天気もまづまづで、参加者も大満
足。上記の他に、福島県小鳥の森と阿武隈川でパン
、ハマシギ、コゲラ、ツバメ、エナガ、ヒガラ、ヤマ
ガラの7種が見られ、合計64種。

11月24日(日) 富士見市 柳瀬川

人 11人 天気 雨 鳥 コサギ マガモ カ
ルガモ コガモ オナガガモ キジ タゲリ ハマ
シギ クサシギ タカブシギ タシギ ユリカモメ
キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セ
グロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズ
メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
(29種) 雨の中、開けた刈り田に雄のキジが4羽も
出現。ハマシギの群舞もみごとだった。

11月25日(月) 大井野鳥公園

人 5人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ
ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ
オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロ
ガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ト
ビ クイナ パン オオパン ユリカモメ セグロ
カモメ ウミネコ キジバト ハクセキレイ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウ
グイス シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジ
ュリン カワラヒワ スズメ オナガ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス(38種)

(訂正) 12月号の伊良湖ツアーで「コクガン」は間
違いでしたので、削除願います。

連絡帳

ガンカモ一斉調査にご参加ください

日本野鳥の会では、今年も各支部の協力のもと1月15日に全国一斉調査を行います。

調査により、分布状態、種数、個体数、生息環境などのデータを集め、サンクチュアリや狩猟規制などの保護活動に役立てています。

今年、県内では主として、狭山湖、久喜菖蒲公園、大麻生、森林公園、阪東大橋、吉見百穴の湖、荒川で行います。

参加していただける方は、研究部まで。

野鳥の会はボランティアの手で

私たちの県支部の活動はすべて、会員と役員とのボランティアで支えられています。どれも支部から、報酬を得ているわけではありません。探鳥会などの担当は、足代など自前で頑張っています。事務局や役員もそれぞれ、自分の仕事を持った、普通の社会人で、夜とか休日とかに、わが支部のため、ひいては野鳥保護・自然保護のために、程度の差はあれ、個々の意思で尽力しているのです。

ですから、力が及ばず、会員の皆様にはは色々と思えます。しかし、野鳥の会はボランティアで支えられている、という事情をご理解いただき、県支部の進展につながると思われるご意見など、どしどしご提案ください。

ご寄付ありがとうございます

次の方々から、ご寄付いただきました。

秋間利夫 2,930円、五十嵐輝雄 1,000円、石井生高 1,594円、多胡美代 3,000円、田中昭三郎 1,000円、為貞貞人 1,000円、蛭田静

子 200円

※50音順、敬称略。

会員数は

12月15日現在、635人です。

事務局日誌

- 11月2日 浦和で編集部会。
- 3日 寄居で総務、普及の各部会。
- 5日 『しらこぼと』11月号発送。
- 6日 浦和郵便局へ、冬鳥調査用はがき受取人払いの承認申請（海老原）。
- 7～8日 栃木、群馬、東京の各支部と合同探鳥会についての打合せ。
- 11日 保護鳥の取扱いなどについて、県庁自然保護課へ（海老原）。
- 15日 北部総合運動公園について、県庁公園緑地課へ（海老原）。
- 16日 浦和で研究部会。

編集後記

▷昨年の初冬、新潟へ行って来ました。海に面した宿の夜、友と語り、酒くみかわし、翌朝、日本海と佐渡の山なみ、上空を白鳥が連なって行くのを見た。会員の皆様、今年も楽しい会にするため、編集子一同頑張りますので、よろしくお願いします。（楠見邦博）
▷発足した当初は、わずかなスタッフで四苦八苦。今は編集部員も7人に増えて、だいぶ楽になりました。より充実した『しらこぼと』を目指してがんばらねば。（海老原美夫）
▷送られてくる野鳥情報は、うれしいものです。常連の方のものからは、その人のフィールドや好みの鳥まで想像できるし、初めての方のものは、うれしさも倍になります。（山部直喜）▷増頁で20号記念らしく。（編集部）

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

（イラスト風見出し・鷹尾正済）

『しらこぼと』

1986年1月号（第20号）

頒価100円（会費に含まれます）

発行人 今井昌彦

発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

（無断転載を禁じます）